

# ニッポン ドクター和の 臨終回巻



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウイルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けつたいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

は、不整脈との発表です。

心臓のリズムが乱れ、通常の心拍数から逸脱することを不整脈といいます。一言で不整脈といって

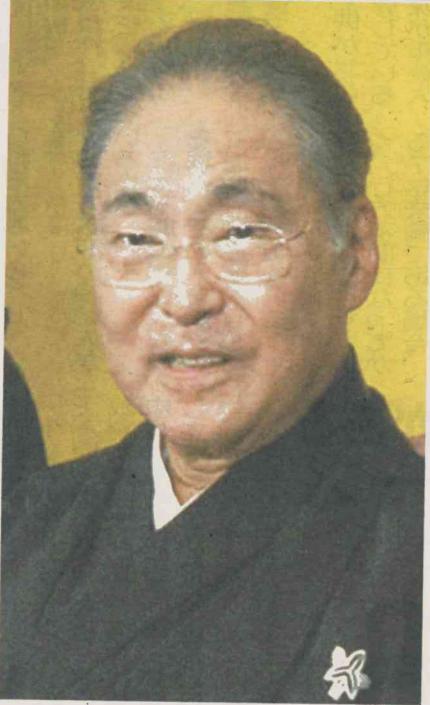
も脈が速くなるタイプの「頻脈性不整脈」、遅くなるタイプの「徐脈性不整脈」など多くの病態があります。加齢とともに増加するのが「心房細動」というタイプです。

猿翁さんは2003年、博多座で公演中に体調不良を訴え、脳梗塞と診断されました。晩年はパーキンソン病も患っていました。

脳梗塞と診断されて以降、復帰

危険でない不整脈は誰にでもあります。しかし、めまいや倦怠（けんたい）感、息切れ、胸痛や気持ち悪さが伴うようであればすぐに病院を受診してください。わが国では、80歳以上の3%の人に心房細動が見られます。心房細動により心室のポンプ機能が低下して心全に至つたり、心臓の中に生じた血栓が脳に飛んで詰まることがあります。

猿翁さんが、その一方で、歌舞伎へ13年にNHKスペシャルで放送された「父と子」というドキュメンタリーをたまたま僕は見ました。苦しいリハビリに打ち込む猿翁さんが、その一方で、歌舞伎への進出を決意した俳優で息子の香川照之さんに稽古をする壮絶な日々。



歌舞伎俳優 市川猿翁

323

# 「宿命」に生きた革命児

歌舞伎界の革命児といわれ、三代目市川猿之助として「ヤマトタケル」や「新・三国志」などこれまでの歌舞伎では考えられない物語を題材に、けんかあふれる演出を盛り込んだ「スープ歌舞伎」を確立。新たな歌舞伎ブームの文字通り立役者となった市川猿翁さんが9月13日、東京都内で亡くなりました。享年83歳。死因

父と子は過去の断絶と愛憎を乗り越え、芝居のために一つの方向を向いていく。歌舞伎の世界に生まれた間にしかわからない「宿命」というものがあり、そのため役者は人生を丸ごと差し出すものなのだと、感銘を覚えました。あれから10年。息子の照之さんは市川中車さんとして、お孫さんは市川團子さんとして活躍中です。猿翁さんの訃報が発表された翌日もお一人は京都・南座に立ち拍手喝采を浴びました。生きる哀しみ、無常が凝縮されている歌舞伎の世界。だからこそ、人を魅了してやまないのでしょう。